

2025 年 1 月 21 日

大拡張局面に向かう LNG 産業と短期的課題

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト
橋本 裕

はじめに

世界の LNG 市場では、年間 1.7 - 1.8 億トン分程度の FID（投資決定）済 LNG 生産プロジェクトがあり、2025 年以降、これらの稼働開始により、大幅な拡張局面に入ることが期待される。世界の LNG 産業の規模は、1990 年から 2000 年、2010 年、現在と、倍増を繰り返し、引き続き他の在来型エネルギー源と比較して大きな成長が見込まれる。本稿は、2025 年初時点の LNG 市場の現状を踏まえ、この成長局面の課題を概観する。

1. 2024 年の LNG 市場とこれが示すもの

2024 年の LNG 貿易量は、速報ベースで、世界全体で 4.05 億トンと、過去最高とはいえ、前年比 0.5% の微増に留まった。輸入の内訳としては、中国が 8% 増（同国の輸入量が 7700 万トンで世界最大）および東南アジア・南アジアの大幅増加が、欧州連合 + 英国の 2 割・約 2200 万トン輸入減少分（輸入量 9200 万トン）を相殺した形となった。日本はほぼ横這いであった。総じて需給は静穏な市場であった。

アジアでは、市場別には、韓国、台湾、香港、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、インド、バングラデシュの LNG 輸入量がそれぞれ、史上最高を更新した。特に ASEAN 地域・インドを含む南アジア地域の LNG 輸入量は、いずれも前年比 16% 増、それぞれ 2400 万トン、4000 万トンとなった。

輸出側では、2023 年に世界筆頭 LNG 輸出国となった米国が、増加率が過去と比較して緩やかとはいえ、継続するキャパシティ拡大を反映して、輸入市場での陸揚げベースのカウントで 8500 万トンを輸出した。豪州が 8000 万トン、カタールが 7900 万トンと、安定的な輸出を続けた。続いてロシアは LNG 輸出量を前年比 5% 増加して 3300 万トンとした。

LNG 物流の変化と並行して、欧州スポットガス価格、アジアのスポット LNG 価格も変動した。両者ともに 100 万 Btu 当たりで 2023 年平均 13 米ドル台であったものが、2024 年前半平均 9 米ドル台・10 米ドル台、同年後半平均 12 米ドル台・13 米ドル台となった。価格水準が相対的に低く安定すれば、アジアの LNG 市場の成長潜在力が顕在化することを示唆している。

東南アジアでは、1970 年代以降、LNG 輸出プロジェクト開発と並行して、域内天然ガス消費も増加してきた。2011 年以降は、ASEAN の 7ヶ国で LNG 輸入プロジェクトが実現しており、域内 LNG 生産の域内での引き取りによる物流に加え、域外からの LNG 輸入も増加している。同地域内の天然ガス消費量中の LNG 比重は、現状の全体の 6 分の 1 から、

2050 年には 3 分の 1 程度へと高まる見通しである¹。沿岸地域・島嶼地域に LNG 利用インフラストラクチャー拡大のポテンシャルを有している。

2. 2025 年以降の LNG 生産拡大への注目点

2020 年代後半の LNG 供給力拡張局面の入口に入る 2025 年以降、建設中の LNG 生産プロジェクトが順調に稼働開始するか、注目される。

米国メキシコ湾岸では、2024 年末より、2 件の LNG 生産プロジェクトが、本格 LNG 輸出に前進している。Cheniere Energy 社の Corpus Christi Stage 3 プロジェクト、Venture Global LNG 社の Plaquemines LNG プロジェクトは、いずれも 12 月に LNG 生産を開始した。このような前進の反面、建設労働力資源確保の問題、インフレーションによる EPC コストアップ、環境関連での訴訟を契機とする建設遅延、資金調達コスト上昇も懸念材料である。一方で米国では、輸出許可手続き再開により、新規プロジェクトへの投資決定前進が期待される。

カナダ西海岸からは、2025 年央の LNG 輸出開始が予定されており、2026 年前半に輸出開始が見込まれるメキシコ西海岸のプロジェクトとともに、太平洋市場向けの LNG 供給源・および輸送経路の多様化をもたらすゲームチェンジャーとなる。

豪州では、既存 Darwin LNG 設備への代替原料ガス供給源となる Barossa ガス田、Pluto LNG 設備増設へのガス供給源となる Scarborough ガス田の開発が進行中で、各々 2025 年、2026 年の生産開始が見込まれる。

西アフリカのモーリタニア・セネガル沖 FLNG プロジェクトも、2024 年末、原料ガスの生産を開始した。アフリカではこの他に、コンゴ共和国、ナイジェリア、モザンビークでも FLNG プロジェクトが続くことが期待される。

東アフリカで 4 年近く建設が中断している Mozambique LNG 1 プロジェクトは、現地情勢の安定化とともに、建設再開が期待される。

中東では、カタール、アブダビ、オマーンとともに、新規・拡張計画が進んでいる。これら LNG プロジェクト進展に向けて、資機材・労働力の確保、エンジニアリング企業の確保、同時に建設コスト上昇の抑制が世界共通の重要課題となる。

他方、LNG 生産プロジェクトの進展に伴うマーケティング活動により需要が喚起され、2024 年に見られたように、新興市場など、価格感応性高い市場による LNG 引き取り意欲は増加していく。供給力の増加見通しに対応した需要喚起と、LNG 生産プロジェクトの建設完了が遅延を伴うことが多いこととの組み合わせにより、これまでの LNG 市場に実現しなかった構造的な「供給過剰」は、今後も現実化しない。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp

¹ IEEJ Outlook 2025